

山浦瑛子教授定年退職記念号発刊に寄せて

高崎経済大学経済学会会長 北 條 勇 作

山浦瑛子先生は、平成18年3月31日をもちまして高崎経済大学経済学部を定年になられ、ご退職をむかえられます。このことを記念致しまして、本学経済学会では退職記念号（『高崎経済大学論集』第48巻第4号）を発刊します。

先生は、昭和38年3月高崎経済大学経済学部経済学科をご卒業になられた本学生え抜きであり、当時絶対数が少なかった女子学生のパイオニアとも言える方です。卒業と同時に旺文社書籍編集部に奉職され、この社会人としての3年余は先生にとって実はかなり重要な期間であったとお聞きしています。昭和42年4月から同46年3月までの間に拓殖大学大学院商学研究科修士課程と経済学研究科修士課程を相次いで修了され、高崎経済大学経済学部には昭和44年4月赴任・奉職されました。以後今日まで37年に亘り研究教育に携わる大学人としてご活躍され、本学に多大のご尽力・貢献を賜りました。

特に、先生は、平成14年の大学院経済・経営研究科修士課程、同16年博士後期課程の開設に際しては、いわば司令官としての中心的役割を果たされました。このことが本学（経済学部）の発展において如何に大きな貢献であったかは、明白であり論を待ちません。将来に亘ってこのことは語り継がれていくことでしょう。

先生の専攻分野は会計学ですが、特にフランス会計学研究それもジャン・フラスティエを通したフランス会計原則プラン・コンタブル研究が一つの中心であると言えましょう。別頁の業績欄にあるように、昭和48年既にフラスティエの著作を翻訳され、この御書はいまや古書に分類されているようです。そして、これを皮切りに多くのフランス会計学に関する研究論文を世に発表されております。この分野でも、先生の研究はやはりパイオニアであり、その後会計学会内部でも各国の会計原則研究に携わる研究者が増えていったようです。先生のフランス会計学に関するご研究は、その後博士論文として結実され、平成6年拓殖大学大学院商学研究科より博士号を取得されています。余談ながら、この博士号も拓殖大学商学研究科が学外の者に出した初めての博士号であったとのことです。

先生は、企業の社会貢献活動・メセナ、環境監査、地域商店街の活性化問題、

特定領域の企業群に対する財務分析、等々幾多の分野に亘り、膨大な研究論文と著書を世に出されております。直近のご単著は平成15年であり、先生の未だ衰えることのないその意欲には驚嘆するばかりであり、後に続くわれわれのお手本・道標になってきました。

先生は、本意を捉えた厳しい研究で鍛錬された鋭い眼光と、包容力があり人間味のあるゆえに醸成される優しく心温まる眼差しを持ち、両者相俟って接する人達に大きな魅力となっており、そういった雰囲気の内面からほとぼり出ています。われわれのために長い間ご指導・ご鞭撻下さいまして本当に有り難うございます。ここに改めて先生がますますご健勝にてご活躍なされますよう祈念致しますとともに、まことに勝手ではございますが、今後もわれわれの大きな指針となって頂けますことを念願する次第であります。先生が幸多からんことを心からお祈り致します。